

露地ナスにおける物理的防除技術を用いたアザミウマ類の管理対策

【背景と目的】

露地ナス栽培では、多種類の害虫が発生するが、アザミウマ類は薬剤抵抗性が発達しやすく、薬剤単独での防除が困難となっている。当センターではこれまで土着天敵を利用した防除技術等を検討し、一定の成果を上げてきたが、近年、昆虫の光や色に対する反応を利用した害虫防除技術の実用化が進んできており、一部地域で導入され始めている。そこでこれらの技術の実用性を検証し、より効果的なアザミウマ類管理技術を提案する。

【研究概要】

- (1) 紫外線反射マルチは、アザミウマ類の誘引を抑制した。一方で、土着天敵であるヒメハナカメムシ類の誘引も抑制した。
- (2) 赤色ネット障壁はアザミウマ類のほか、害虫カメムシ類（主にツヤアオカメムシ）による被害を少なくする傾向がある。一方で、紫外線反射マルチや天敵温存植物と紫色 LED の併用は、害虫カメムシ類に対する防除効果はない。
- (3) 天敵温存植物と紫色 LED の併用は、圃場へのヒメハナカメムシ類の誘引数を増加させた。
- (4) ヒメハナカメムシは、天敵温存植物として植栽したマリーゴールド、ソバ、ゴマ、オクラに定着しており、ナスの花にヒラズハナアザミウマが寄生した期間を通じて発生が見られた。また、天敵として有用なタバコカスミカメがゴマに9月以降発生が見られた。花の開花や植物体の状態により、露地ナスの栽培にはマリーゴールドとオクラが適すると考えられた。
- (5) 天敵温存植物上のヒメハナカメムシ類は、紫色 LED によってナス上に早期に発生し、かつ天敵温存植物だけの区や無処理区よりも長期間滞在することが明らかになった。